

金曜行動 2月5日

◇盛岡

再生可能エネに

「盛岡でもデモし隊☆」

は、盛岡市で脱原発を迫る240回目のデモ行進をしました。17人が参加し、「女川原発いまずく廃炉」「再生可能エネルギー使おう」とコールしました。主催者の50代の女性は、「もうすぐ福島原発事故から10年になるが、溶け落ち



デモ行進する参加者＝盛岡市

た核燃料ですら、まだ取り出せていない」と指摘。事故収束には程遠いと訴えました。参加した65歳の女性は、「菅首相が『温室効果ガスの排出を減らすために』と言って原発を継続するのは、やめてほしい」と語気を強めました。

◇静岡・富士宮

浜岡原発廃炉に

静岡県富士宮市の神田川広場（浅間大社前交差点南）で、359回目の原発再稼働反対アクション@富士宮があり、8人が参加しました。2012年7月から、中部電力浜岡原発（御前崎市）再稼働反対・原発ゼロなどをアピールしています。

参加者は「原発いらない」の横断幕や「汚染水を流さないで」のプラカードを持ってスタンディングア



スタンディングアピールする参加者＝静岡県富士宮市

原発再稼働ストップ



再稼働反対の思いを伝える参加者＝高松市四電前

◇高松

「ふるさと守れ」

「原発をなくす香川の会」と有志は、高松市で原発の廃炉を求めるプラカードを持ってスタンディングをする。同時に、四国電力本店前で「ふるさと守れ」「フクシマ（事故）は終わっていないぞ」とシュプレヒコールをあげました。

◇北九州

原発ゼロ法要求

北九州市の「さよなら原発」



プラカードを掲げて署名を呼びかけるメンバー＝北九州市



駅前でリレートークする参加者＝鹿児島県薩摩川内市

参加者は、地震動の過小評価による原発の危険性を指摘したり、「国は原発を止められなくなっているのではありませんか」など再稼働反対への思いを語りました。日本共産党の藤沢やよい市議は「事故から間もなく10年ですが、今も故郷に帰れない人がいる、全国の原発を廃炉にして自然エネルギーを生かしていこう」と話しました。

同市で金曜行動を始めた当初から参加する河野京子さん（76）は、「被災者へ思いを寄せる行動として参加しています。原発ゼロのためには政権を代えるしかない」と力を込めました。

「ふるさと守れ」の署名する人がいました。50代の女性は「少しずつ事故のことが忘れられている気がします。できれば（集会に）参加したい」と話しました。

同日で金曜行動を始めた当初から参加する河野京子さん（76）は、「被災者へ思いを寄せる行動として参加しています。原発ゼロのためには政権を代えるしかない」と力を込めました。

「さよなら原発」のプラカードを掲げてスタンディング。「原発を廃止し、再生可能エネルギーに転換する原発ゼロ基本法の制定を求める請願署名」を呼びかけるとともに、福島第1原発事故から10年の節目を迎える3月11日の「さよなら原発」3・11北九州集会のプラカードを配布しました。

◇鹿児島・薩摩川内

稼働停止すべく

稼働中の九州電力川内原発1・2号機がある鹿児島県薩摩川内市で、「さよなら原発 いのちの会」が446回目の金曜行動に取り組みました。

川内駅前には12人が集まり、リレートーク。参加者からは、県が今年6日に予定していた原子力防災訓練を新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止したこと批判の声が上がりました。県や市町村が策定した避難計画通りの避難では、バスや避難所の3密を避けるのは非常に困難です。コロナ禍で原発事故が発生すれば、多くの住民を放射能と新型コロナウイルス感染の危険にさらすことになる」と指摘し、「一刻も早い稼働停止を」と訴えま

原発再稼働ストップ



「原発やめろ」とコールする参加者＝神戸市中央区

金曜行動 2月12日

◇神戸

450回目も通過点

関西電力兵庫支社前原発反対の行動第450夜が、神戸市中央区の関西電力支社前でありました。

青年らでつくる「原発ゼロ！核兵器ゼロ！ゼロこね」とが呼びかけ、2012年7月6日から始まりました。今年元日から行動し、450回目のこの日は34人が参加。のべ参加者は2万1655人になりました。参加者は支社に向かって「老朽原発もう動かすな」などとコール。リレートクでは、エネルギー基本計画見直しへのパブリックコメント提出などが呼びかけられました。首都圏反原発連合のミサオ・レッドウルフさんが音声メッセージを寄せました。

「原発ゼロをめざす神戸の会」の橋本銀河さんは、大飯原発設置変更許可を取り消す大阪地裁判決や核のゴミ、原発マネー還流など関電と原発政策の行き詰まりを強調。「原発のない社会をめざして引き続き行動したい。いっしょにがんばりましょう」と呼びかけました。

原発再稼働ストップ



金曜行動 2月19日

◇盛岡

地震多くて怖い

「盛岡でもデモし隊☆」は、盛岡市で脱原発を求めると241回目のデモ行進に取り組みました。冷え込みが続くなか、13人が参加しました。

福島県沖地震（13日夜）では岩手県民も激しい揺れを感じ、東日本大震災津波を思い起こしました。マイクを握った主催者の女性は「日本に原発があるのはダメだと改めて思った」と訴えました。

犬の散歩でデモの集合場所を通った43歳の女性は「以前からデモは気になっていた。私は九州の出身だが、地震が多い東北の太平洋側に原発や再処理工場があるのは、とても怖い」と話しました。

◇前橋

政権を代えよう

原発をなくす前橋連絡会は、前橋市の前橋駅北口で418回目の宣伝にとりくみました。

連絡会の荒木兼男事務局長は、地震の多い日本に原発をつくったことは誤りだと指摘。「野党が提出した原発ゼロ法案の審議もしない政権は、選挙で代えよう」と訴えました。

群馬県平和委員会の小田暁夫会長が、原発をなくして再生エネルギーを求める世論が多数だと紹介。「子や孫世代への責任を果たすため、原発政策を変えよう」と呼びかけました。



「東北電力原発やめて」とコールする参加者＝盛岡市

◇高知市

電気まかなえる

原発をなくし自然エネルギーを推進する高知県民連絡会は、高知市の県庁前でスタンディング宣伝し、7人が参加して原発ゼロの日本の実現などを求めました。

参加者はリレートクで「原発がなくても電気はまかなえる。原発やめろの声を上げよう」「住民の安全が保障されていないのに、原発の再稼働を進めるのは許せない」などと訴えました。

また、3月6日に高知市の藤並公園で開く「3・11を忘れない こうちアクション」と、11日に高知市役所前で開く「3・11メモリアルキャンデルナイト」を案内しました。

バイクで通りかかった男性は「地震国の日本に原発をおくこと自体がまちがっている」と話しました。



原発をなくそうと訴える参加者＝前橋駅北口



リレートクで訴える参加者＝高知市



原発をなくそうと訴える参加者＝前橋駅北口

金曜行動 2月26日

◇前橋 依存政策転換を

原発をなくす前橋連絡会は、前橋市の前橋駅北口で419回目の宣伝に取り組みました。

連絡会の大川正治事務局長が、原発事故から10年後の今も、群馬の農水産物の一部は出荷制限中だと指摘。荒木兼男事務局次長は、地震や津波で家が無事だった人も、事故のために故郷を失ったままだと訴え。「原発依存政策の転換を」と呼びかけました。

群馬訴訟の原告の丹治杉江さんは「福島で震度6を観測した13日の地震で、原発に異常なしと報告された。だが、現地に行き質問して、燃料プールの水漏れがあったと判明した。常に隠蔽（いんぺい）・虚偽報告の原発と私たちは共存できない」と訴えました。